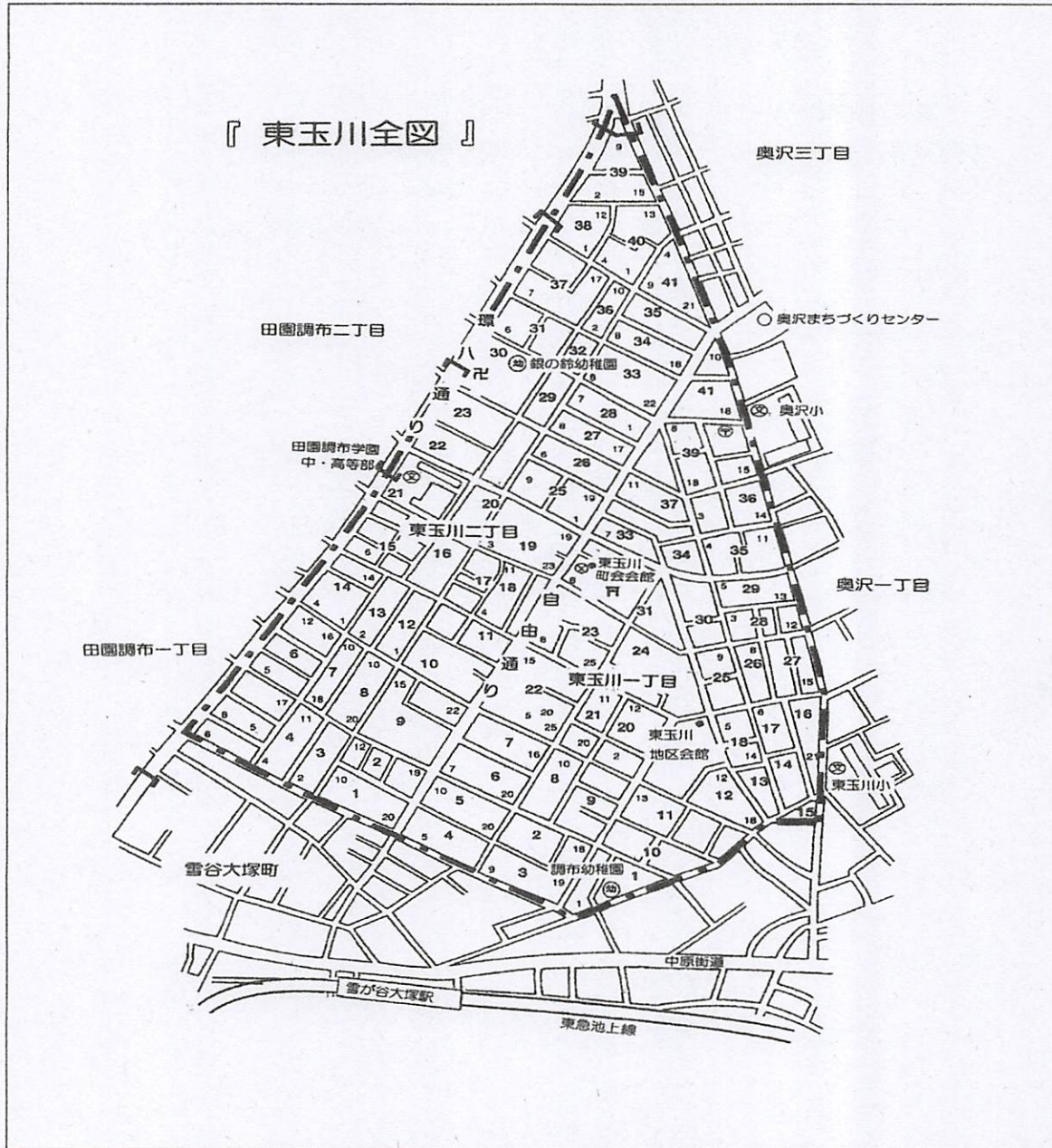


# 東玉川の歴史



平成 24 年 3 月  
東玉川の歴史を語りつぐ会

## 「東玉川の歴史を語りつぐ会」の年表冊子を発行するに際して

東玉川の歴史を語りつぐ会 会長 後藤 茂

「東玉川の歴史を語りつぐ会」では、平成 22 年 6 月から世田谷区の「地域の絆再生支援事業」の一環として、歴史資料の収集と整備に注力してきましたが、ここに東玉川の歴史に関する年表形式の冊子を「後世に形あるもので語りつぎたい」との思いを込めて編集することができました。

ところで、冊子を紐解きますと、基盤の目のように整地された東玉川の町は、その昔「玉川全円耕地整理事業」を成し遂げた先人たちの労苦の賜物であることが分かります。改めて今日の交通便利性に恵まれた住み良い町の礎を築いた先人に感謝する次第です。

また、平成 21 年 3 月に新装なった「東玉川町会会館」では、総会や理事会はもとより、子育て広場やうたの会、健康体操等、会員交流の場としての役割を果たすことが出来るようになりました。老朽化した「東玉川会館」はその所有権等を巡る 6 年半にわたる裁判で、歴代町会長の保管資料や「東玉川むつみ会」の子育て記録帳等が町会の主張を裏付ける有力な証拠となり、会館の建替が認められました。

さらに「東玉川町会会館」の総工費は、600 人に及ぶ多くの町会員各位の熱意の寄付、数名の篤志家による多額の寄付金、「東玉川むつみ会」からの長年の積立金を取り崩しての寄付、そして世田谷区よりの助成金を合わせて完済し、借入金を残すことはありませんでした。現在、地縁による団体運営を続けるために町会が結束して取り組んでいる「資源回収事業」は、リサイクル事業の啓発と健全財政を目指すものであり、皆様のご支援をお願いする次第です。

最後になりましたが、冊子が編集できたのは、石井一正前町会長の残された資料が大きく貢献されています。また、数回に及ぶ東玉川の歴史を語り合う会に参加され、歴史資料の提供や歴史に関する生きた証言をいただいた皆様様に心から感謝申し上げます。なお、冊子には不備、不十分な点が多々あるかと思われませんが、限られた条件での編集ゆえ、ご容赦下さい。

東玉川は、国土交通省より平成 23 年度の“街並み道路付けの優良住宅地”として全国 5 箇所の調査対象にも選ばれました。住民全員が心を一にして永遠に住み良い町を築くべく協調してまいりましょう。

### 年表についての留意事項

- ① 作成期間を昭和元年以降とした。ただし関連性のある事柄については昭和以前も記載した。
- ② ジャンル別の構成とし、「行政・インフラ関係」等については細目を設けた。
- ③ 事柄が発生した時期については「年、月」を原則とした。
- ④ 事柄が完了するまで時間を要するものや、同様の事柄が長期間継続する場合にはひとまとめとした。

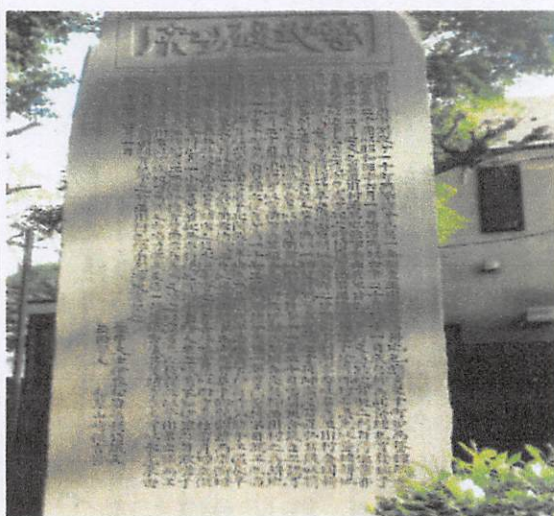
## 1、行政・インフラ関係

東玉川は、明治 22 年の市制及び町村制の施行により「東京府荏原郡玉川村大字等々力字諏訪分」となる。諏訪分という呼び名は、この地に諏訪神社があったところからつけられたと伝えられている。大正 15 年、近隣町村の都市化に遅れをとらず、また田園都市開発(株)の農地買収から玉川村を守るため「玉川全円耕地整理組合」が設立され、宅地造成事業を推進した。「諏訪分工区」は玉川村の 17 工区中トップをきって宅地造成に着手し、昭和 6 年に竣工した。東玉川町内の基盤の目のように整然とした道路はほぼこの時に完成した。昭和 7 年、東京市域の拡大により、玉川村は「世田谷区」に編入され、諏訪分は「東玉川町」と改名された。東玉川という町名は、玉川地域の東端に位置しているところからの命名と言われている。

年 月	(行 政)
明治 以前	東玉川は、古くは「武蔵野国荏原郡玉川村大字等々力小字大平分」といわれていたが、江戸時代には「武蔵野国荏原郡玉川村大字等々力字諏訪分」と呼ばれていた。
明治 22. 5	市制及び町村制の施行により、東玉川は「東京府荏原郡玉川村大字等々力字諏訪分」となる。
昭和 7.10	市制拡大により、荏原郡は世田谷区、目黒区、大森区、荏原区、蒲田区、品川区の 6 区に分割される。このとき玉川村は世田谷区に編入され、諏訪分は「東玉川町」と改名（東京市世田谷区東玉川町〇番地に）。
18. 7	東京市と東京府が合併して東京都が発足する（東京都世田谷区東玉川町〇番地に）。
42. 6	新住居表示が導入され、東玉川は通称「自由通り」を境に 1 丁目と 2 丁目に分割され、街区番号と住居番号で表示（東京都世田谷区東玉川 1 丁目〇番〇号及び 2 丁目〇番〇号に）。
	(土 地 開 発 <宅 地 造 成> 事 業)
大正 15. 3	東京府荏原郡玉川村の土地開発（宅地造成）事業を推進するため「玉川全円耕地整理組合」が設立され（玉川村を 17 の工区に分け、分区耕地整理組合を組成）、組合長には玉川村村長の豊田正治氏が、組合副長には諏訪分から早川伊助氏が就任。
昭和 2.10	諏訪分工区の耕地整理組合が組成され、早川伊助区長、安藤久兵衛・鈴木定吉副区長を選任し、土地開発事業を推進。
3. 6	玉川全円耕地整理組合の諏訪分区工事が着工され（17 工区中トップ）、6 年 10 月に竣工。9 年 12 月には諏訪分工区の耕地整理登記が完了。
12	諏訪分工区の「整理竣工碑」を東玉川神社境内に建立。
	(電 気・ガ ス・上 下 水 道・電 話 等)
明治 23	東京と横浜地区で電話サービスが開始。
大正 4	玉川村が配電地域に。
7	玉川水道(株)(後に東京市水道と合併)が営業を開始し、玉川村が配水地域に。
15	電話がダイヤル式に移行。
昭和 5.4	玉川村にガスが供給。
25	東京都清掃部がゴミの回収・処分を実施。

年 月	(電 気・ガ ス・上 下 水 道・電 話 等)
昭和 35	東京 23 区内の電話局番が 3 桁に、平成 3 年には 4 桁に。
44	電話のプッシュホンが登場。
63	下水道が完備 (当時の世田谷区の普及率は 80%)。
	(警 察)
明治 43	品川警察署世田谷分署が池尻に設置され、世田谷、松沢、駒沢、玉川、目黒の 5ヶ村を管轄。
大正 11. 9	品川警察署から分離独立し、世田谷警察署が開設。
昭和 4	奥沢巡査部長派出所を設置、玉川地区に 15ヶ所(東玉川 2)の巡査駐在所を設置。
10.10	世田谷警察署から分離独立し、玉川警察署が開設。
14. 2	玉川警察署の東玉川駐在所が設置され (東玉川交番の現在地)、27 年には駐在所から派出所に昇格。
平成 6. 7	東玉川派出所が「東玉川交番」と名称変更。

玉川全円耕地整理組合諏訪分工区竣工碑



## 2、交通関係

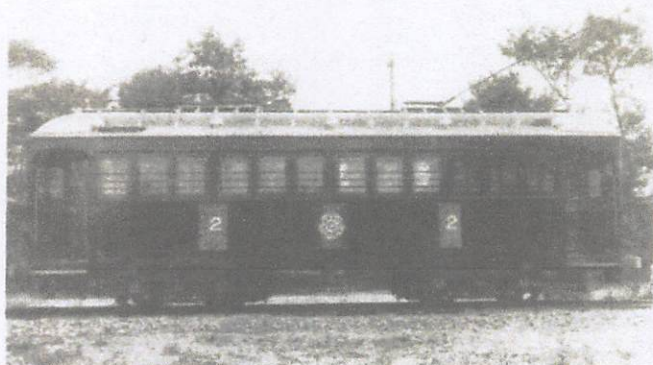
東玉川は、東に石川台駅、南に雪が谷大塚駅、北に奥沢駅、自由が丘駅、西に田園調布駅と周囲を東横線、目黒線、大井町線、池上線の 4 線に囲まれているほか、町の中央である通称自由通りには渋谷駅への東急バスが走るなど交通利便性に恵まれた住宅地である。

昭和 3 年に五反田・蒲田間を開通した池上電鉄は、同年、雪ヶ谷から中央線国分寺駅までの約 21 キロの新線計画を打ち出し、手始めに雪ヶ谷・新奥澤間 (新奥澤線と呼称) を開通させたが、行く手を目蒲線と大井町線に遮られ、計画を断念、昭和 9 年に目黒蒲田電鉄に買収された。もし計画どおりにこの鉄道路線が建設されていたならば、東玉川の交通利便性が一段と向上するとともに、街並みも大きく変貌したと思われる。

年 月	(鉄 道 路 線)
大正 11.10	池上電鉄の蒲田～池上間開通、12年5月に池上～雪ヶ谷間開通、昭和3年6月に雪ヶ谷～五反田間開通（池上線全通）
12. 3	目黒蒲田電鉄の目黒～奥沢～田園調布～武蔵丸子（丸子多摩川）間開通、12年11月に武蔵丸子～蒲田間開通（目蒲線全通）。
15. 2	東京横浜電鉄の丸子多摩川～神奈川（現横浜と反町の間）間開通、目蒲線と相互乗り入れ（目黒～神奈川間直通）。
昭和 2. 7	目黒蒲田電鉄の大井町～大岡山間開通、4年11月に自由が丘～二子玉川間開通、4年12月には大岡山～自由が丘間開通（大井町線全通）。
2. 8	東京横浜電鉄の丸子多摩川～田園調布～自由が丘～渋谷間開通（神奈川～渋谷間開通、東横線と呼称）。7年3月に神奈川～桜木町間開通（東横線全通）。
3.10	池上電鉄の雪ヶ谷～諏訪分～新奥澤間開通（新奥澤線と呼称）、10年11月に廃止。
9.10	目黒蒲田電鉄が池上電鉄を吸収合併。14年10月に目黒蒲田電鉄と東京横浜電鉄が合併し、社名を東京横浜電鉄に変更。17年5月に東京急行電鉄と商号変更。
18. 7	東京急行電鉄の二子玉川～溝口間開通（玉川線<明治40年4月に三軒茶屋～二子玉川間開通、昭和2年7月に二子玉川～溝口間延長>を切り替え）。
38.10	東京急行電鉄の大井町線を田園都市線に改称。
39. 8	東京急行電鉄の東横線が北千住～中目黒～日吉間で営団地下鉄と相互乗り入れ、平成19年8月に菊名まで延長。
54. 8	東京急行電鉄の田園都市線が二子玉川～渋谷～北千住間で営団地下鉄半蔵門線と相互乗り入れを実施したのに伴い、大井町～二子玉川間は大井町線と再呼称。
平成 12. 8	東京急行電鉄の目蒲線を目黒線と多摩川線（多摩川～蒲田）に分割、12年9月には、目黒線と営団地下鉄南北線、都営地下鉄三田線と相互乗り入れを実施、目黒～武蔵小杉間開通、20年6月には日吉まで延長。
16. 1	東京急行電鉄の東横線の横浜～桜木町間廃止、16年2月に横浜高速鉄道みなとみらい線（横浜～元町・中華街）と相互乗り入れ。
21. 7	東京急行電鉄の大井町線が二子玉川から溝口まで延長。
	(バ ス 路 線)
昭和 4. 9	池上電鉄が五反田～品川間新設、その後、丸子渡（丸子多摩川）～雪ヶ谷～五反田～品川に延長。
8	池上電鉄が池上～雪ヶ谷間新設、その後、大森～池上～笹丸～雪ヶ谷～田園調布間に延長（9年に池上電鉄は目黒蒲田電鉄に吸収合併）。
17. 2	目黒蒲田電鉄がバス路線を再編成、雪ヶ谷駅前～田園調布南口、田園調布～等々力ゴルフコース、目黒駅前～自由が丘、自由が丘～駒沢ゴルフコースを運行。
22. 6	東京急行電鉄と東京都が雪ヶ谷大塚駅～東京駅間新設、41年11月に丸子橋～東京駅間に延長、54年12月に丸子橋～品川間に短縮、平成1年3月に廃止。
26.12	東京急行電鉄が大森駅～田園調布駅間新設、27年6月に等々力、28年5月に瀬田、30年4月に二子玉川園まで区間延長、56年6月廃止。
28. 5	東京急行電鉄が自由が丘～三軒茶屋間新設、29年9月に自由が丘～渋谷駅間に延長、31年11月に田園調布～渋谷駅間に延長。

(バス路線)	
昭和 33. 7	東京急行電鉄と京浜急行電鉄が田園調布～羽田空港間の共同運行を開始。51 年 12 月に東京急行電鉄が撤退、平成 10 年 3 月には京浜急行電鉄も撤退。
34. 5	東京急行電鉄が渋谷駅～大森駅間新設、56 年 5 月に渋谷駅～丸子橋間と田園調布駅～大森駅間に分断、平成 5 年 11 月に田園調布駅～大森駅間廃止。
34. 9	東京急行電鉄が田園調布駅～世田谷区民会館間新設、38 年 5 月に田園調布駅～世田谷区民会館～若林～渋谷駅間に延長、47 年 8 月に田園調布駅～世田谷区民会館間と世田谷区民会館～若林～渋谷駅間に分断。
39. 3	東京急行電鉄が蒲田駅～雪ヶ谷大塚～田園調布駅間新設。
46. 7	東京急行電鉄が田園調布駅～千歳船橋駅間新設。
(道 路)	
昭和 10.5	丸子橋開通。
14	区道 33C246 号の現在の東玉川小学校～中原街道石川橋間の道路直線化が完了。
31	環八（東京都道 311 号）が本格着工、45 年 11 月に田園調布～中原街道間開通、平成 18 年 5 月に全線開通（大田区羽田空港 3 丁目～北区岩淵町間、44Km）。
32	上馬奥沢線（通称自由通り）の東玉川～中原街道間の道路直線化が完了。

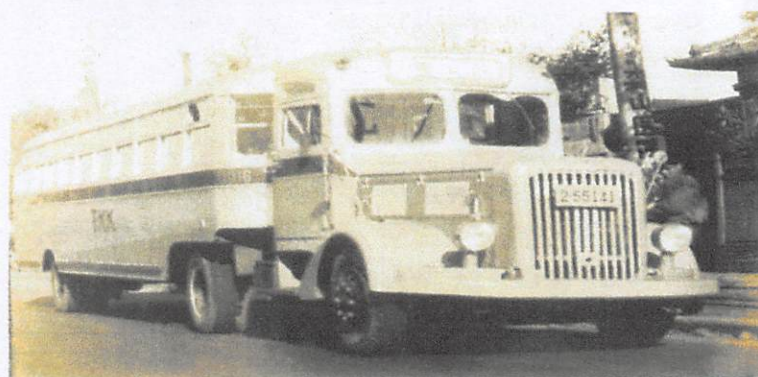
新奥澤線開業時に走行した電車（関田克孝氏 所蔵）



新奥澤駅跡石碑



雪ヶ谷大塚駅・東京駅間を運行したトレーラーバス



### 3、教育関係

八幡小学校（現玉川田園調布 2-17）の起こりは、慶応の末期に下沼部向河原の人が八幡神社（現奥澤神社）境内の社寮に子弟を集めて読み書きなどを教えたのが始まりで、その後小林大次郎という浪人がこれを引継ぎ、さらに東京府士族の松沢弘義がここで寺小屋授業を始めた。

明治 12 年 12 月に戸長の毛利多喜蔵氏等が社寮を修理し、八幡尋常小学校と命名して開校した。当時は児童数 30 名、校舎の広さは 15 坪、簡易科 4 年制、尋常科 4 年制であった。

昭和に入って宅地化に伴う人口増加に対処するため、昭和 7 年 6 月に八幡尋常小学校奥澤分教場が開校され、翌年 12 月に奥澤尋常小学校として独立した。昭和 26 年、奥沢小学校が 2 部授業を行うほど児童数が増えたため、東玉川小学校が開校した。

（奥沢地区 身近なまちづくり推進協議会主催 第 3 回歴史と文化を尋ねる歩こう会資料より）

年 月	教 育 関 係
明治 12.12	八幡神社（現奥澤神社）の社寮を修理して八幡尋常小学校が開校。
大正 15. 7	調布女学校が開校。調布幼稚園が開園。
昭和 2. 2	調布高等女学校（3→5 年制）が開校。
7. 6	八幡尋常小学校奥澤分教場が開校、8 年 12 月には奥澤尋常小学校となる。
16. 4	国民学校令の公布により、「奥澤尋常小学校」から「奥澤国民学校」と改称。
19. 5	政令により調布幼稚園が開園。
19. 6	奥澤国民学校が長野県松本市等に学童集団疎開、20 年 11 月に帰京。
22	教育基本法と学校教育法が施行され、「奥澤国民学校」を「奥沢小学校」と改称、奥沢中学校が開校。
22. 4	調布中学校の設置が認可される。
23. 3	調布高等学校の設置が認可され、法人名称を「財団法人調布学園」とする。26 年 3 月には「学校法人調布学園」に組織変更。
25. 3	銀の鈴幼稚園の設置が認可される。
25. 4	東玉川自治会事務所内に都立玉川保育園の東玉川分室が設置され、児童 40 名の保育事業を開始。31 年 3 月に奥沢南保育園に併合され閉園。
26. 4	東玉川小学校が開校。
28. 2	戦中に閉園となった調布幼稚園が復活。
42. 2	調布学園女子短期大学（川崎市麻生区）の設置が認可される。平成 11 年に全学部が男女共学となる。
60. 1	東玉川小学校が学校給食優良校として文部大臣、東京都等から表彰される。
平成 14.4	田園調布学園大学が設立され、調布学園短期大学を田園調布学園大学短期大学部に名称変更。
16. 4	調布学園中学校と高等学校の名称を田園調布学園中等部と高等部に変更。
17. 4	東玉川小学校が世田谷区の教育委員会から地域運営学校に指定される。
22. 4	世田谷 9 年教育「和みの学び舎」（おくさわグループ＜東玉川・奥沢小学校、奥沢中学校＞）が発足。

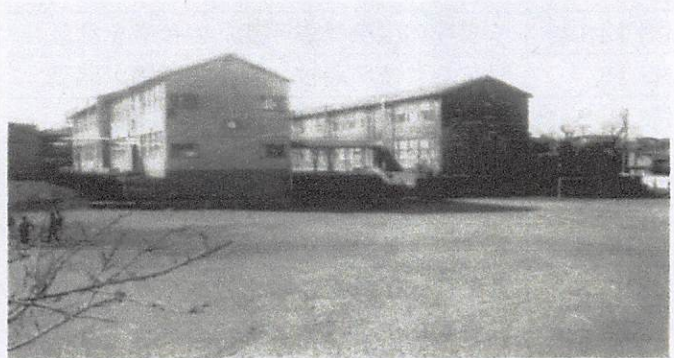
奥澤神社境内の八幡小学校発祥の碑



奥沢小学校開校当時の校舎



東玉川小学校開校当時の校舎



#### 4、東玉川神社関係

荻野三七彦氏らによる「世田谷区の歴史」には次のような一文が記載されている。

「東玉川神社、祭神は大山昨命（おおやまぐいのみこと）・建御名方命（たけみなかたのみこと）。天文 20 年（1551 年）以後に勧請したのであろうが、この旧等々力村飛地大平分（のちに諏訪分と改名）には諏訪神社があり、明治以前は十戸の鎮守的存在であったが、明治 41 年、等々力村本村の玉川神社に合祀されて、この地には神社がなくなってしまい、大正の末期から急増した移住者は鎮守の所在を知らず、地域住民としてのよりどころがなかった。・・・」

年 月	東 玉 川 神 社 関 係
明治 41.11	「神社合祀令」を受けて諏訪分にあった諏訪神社は等々力の熊野神社に合祀される。熊野神社は、諏訪神社、天祖神社、御嶽社の 3 社を合祀して玉川神社と改名。
昭和 3.6	玉川全円耕地整理組合の諏訪分区工事の着工に合わせ、地主 7 名から約 400 坪の土地が神社境内地に提供され、諏訪神社の再興に踏み出す。



年 月	東 玉 川 神 社 関 係
昭和 4	現在の末社（御嶽神社・伏見稻荷神社）を創建。
11	渋谷の氷川神社拝殿の諏訪神社への譲渡が決定、14年10月に氷川神社拝殿の解体移築工事が完了。
14.11	氷川神社本殿の譲渡に諏訪神社が入札・落札し、12月に解体工事が完了し、建物を受領。
15.9	東京府知事から「諏訪神社」を社名変更し、「東玉川神社」とする認可を得る。
15.11	氷川神社本殿の移築工事が完了、社殿完成報告祭を実施。
29	神楽殿が完成。
38.8	御水屋が完成。
44.8	社務所が落成。

## 5、震災・戦災関係

昭和19年、マリアナ諸島が米軍の手に陥ると、サイパン、テニアン、グアム島の米軍基地からB29が東京上空に飛来、空爆を開始した。世田谷区が初めて空爆被害をうけたのは、昭和19年11月28日であったと記録されている。以後、20年5月26日まで9回被爆したが、このうち20年3月10日の空襲では奥沢境の現東玉川2丁目39,40,41番あたりが大きな被害を受けた。これは当地に高射砲があったためと言われている。

年 月 日	震 災・戦 災 関 係
大正 12.9.1	関東大震災による玉川村の被害は、家屋全壊7戸、負傷者6人。
昭和 16.4	米の通帳制度による配給が開始され、16年7月には豆類も配給対象となる。17年1月には、塩、味噌、醤油等も通帳割当制となり、衣料については「総合切符」により配給。
16.12.8	大東亜戦争始まる。
17.4.18	東京が初めて空襲を受ける。B25、6機が飛来、世田谷区に被害なし。
19.11.28	世田谷区に初めてB29による空爆被害、以後20年2月16日、19日、3月10日、4月4日、15日、5月24日、25日、26日の計9回被爆。
20.3.10	東京大空襲。東玉川、奥沢、玉川田園調布の被害は、死者1人、負傷者4人、家屋全焼60戸、家屋半焼2戸、被災世帯92、被災者281人。
20.4.4	夜中（午前1時）の空襲。東玉川の被害は、死者7人、負傷者13人、家屋全焼7戸、家屋半焼13戸（玉川署管内では、罹災者885人以上、死者46人、家屋全焼187戸）。
20.5.24	東玉川の空爆被害は、死者14人、負傷者34人等。
20.5.26	世田谷区北西部の空爆被害が甚大、世田谷区の被害は、死者57人、負傷者3,860人、家屋全焼10,531戸、家屋半焼151戸。
20.8.15	ポツダム宣言を受託して終戦。

## 6、東玉川町会関係

昭和7年10月、東京市の市域拡大により荏原郡玉川村は世田谷区に編入された。諏訪分は世田谷区東玉川町と名称変更し、等々力の飛地としての歴史的な位置付けから解放され、独立した町として認められた。東京市は市域拡大を行うと同時に新市域に町会設置の働きかけを積極的に行った。

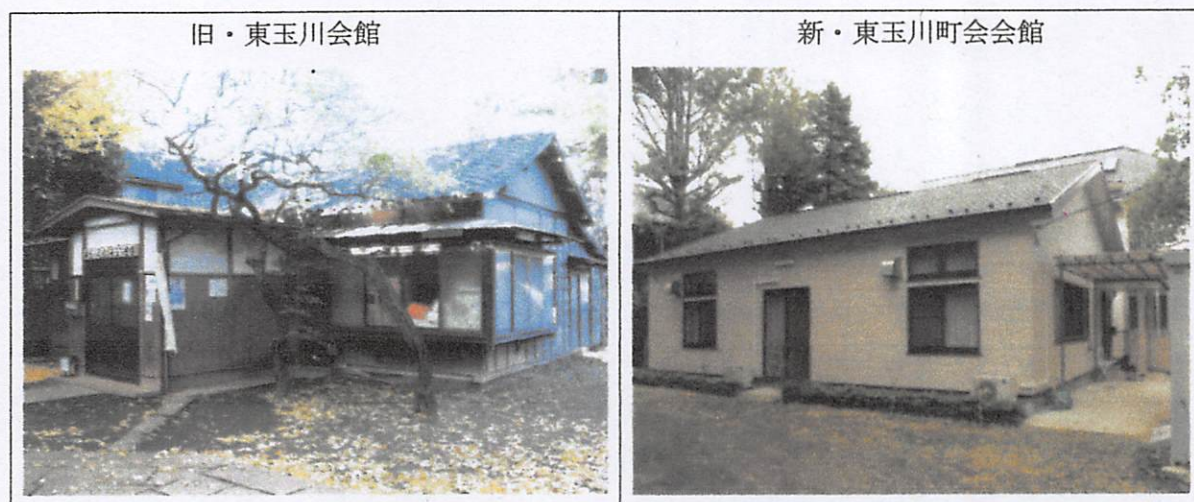
「新修世田谷区史」によると、昭和9年4月に東玉川町会の設立が記録されている。初代町会長には173番地で農業を営む森田弥市氏が就任、森田氏は明治以前から居住する十戸のうちの1軒で、先祖の渾名で「ニシドナリ」と呼ばれていた旧家である。成立直後の東玉川町会の会員数は287世帯と報告されている。

年 月	(一 般 事 項)
昭和 9. 4	東玉川町会が設立され、初代会長に森田弥市氏が就任。結成時の町会会員数は287世帯。第2代会長は伊藤辰也氏、第3代会長には本橋島吉氏。
13. 5	東京市は「東京市町会規則準則」を作成、町会の組織強化に着手。
15.10	大政翼賛会が結成され、町会・隣組がその下部組織となる。
16. 1	東玉川町会は、107坪強の土地を事務所用地として賃借。
16.11	東京市は「東京市町会事務員規定」を作成、市の嘱託事務員を町会事務所に配置、市の事務代行を開始。
17	東玉川町会事務所を新築。
18. 5	東玉川町会が東西に分割される（東町会長は石飛太吉氏、西町会長は早川源蔵氏）。ただし、事務所は両町会が共有、市から嘱託職員が派遣され、世田谷区の業務を担当。
18. 6	東西東玉川町会は、21坪強の土地を町会事務所への専用私道として賃借。
21. 4	東西東玉川町会の組織、財産を継承して東玉川町会が結成され、町会長に五島宗宣氏が就任。
22. 3	世田谷区の出先機関としての町会事務所活動が終了、22年6月に奥沢1丁目に玉川第1出張所を開設、26年4月には現在地（奥沢まちづくりセンター）に移転。
22. 5	GHQのポツダム政令第15号により東玉川町会が解散。
23. 5	東玉川町会の全資産を承継して東玉川自治会が結成され、初代会長に北村雄二郎氏が就任。26年5月に第2代会長高橋清次氏、29年5月に第3代会長甲府方信吉氏が就任。
34. 4	自治会事務所内の都立保育園の閉園に伴い、東京都から支給された自治会事務所復旧改修交付金等により自治会事務所の増改築工事を実施、事務所を「東玉川会館」と命名し、一般開放。
35. 5	第4代会長に早川銘吉氏が就任。
37. 8	町内の防腐剤配給作業、下水道消毒作業を実施。

年 月	(一 般 事 項)
昭和 37.11	防犯や交通利便のため防犯灯を町内に3灯設置。同じく41年2月には東玉川町会が外灯を4灯設置、45年12月には外灯3灯を設置。
39.5	「東玉川自治会」から「東玉川町会」に名称変更、東玉川町会の会則を変更。
40.5	殺虫剤の東玉川町会での団体配布を実施、63年6月に廃止。
40.7	東玉川会館大広間北側に約2坪の物置を設置。
40.9	大森駅～渋谷駅間のバス路線廃止に反対する陳情書を東京急行電鉄に提出。
40.10	「玉川浄水場及び郷土史跡巡り」を実施。45年9月の「富士一周旅行」まで見学ツアー等を毎年実施。
41.10	東玉川会館の玄関部分を含めた広間の増改築を実施。
42.8	長年に亘り町会費の集金等事務に携わった清水氏が退職。
43.6	十勝沖地震被災者に義援金(2万円)を拠出。
50.9	町内高齢者に敬老祝品を配布、以後継続。
53.5	第5代会長に鈴木徳三郎氏が就任。55年5月には第6代会長に鈴木幸雄氏が就任。
55.9	玉川地区総合防災訓練に参加、以後「奥沢交和会」との合同防災訓練や東京都と世田谷区の合同防災訓練に加え、避難所での宿泊訓練なども含めてこれに参加、協力。
55.9	玉川警察署の協力を得て自動車運転者交通安全講習会を開催、以後、毎年実施。
55.9	下水道建設の署名運動を展開、57年9月にも実施。
55.10	不用品販売会を開催、以後、62年まで毎年1回実施。
57.4	東玉川町会会員名簿を作成、配布。平成8年7月、14年5月にも作成、配布。
58.1	世田谷区立東玉川地区会館が開設され、管理業務を東玉川町会が担当。
58.10	東玉川地区会館で文化祭を開催、61年10月にも開催。
58.11	玉川地区町会連合会及び玉川地域防災連絡協議会の「防災施設見学会」に参加、以後、平成14年11月の見学会まで参加。
60.11	「地引綱・みかん狩り」ツアーを開催。63年～平成3年には「潮干狩り」を開催。
62.9	バス見学研修会を実施、以後、日帰りバス旅行も含め概ね毎年実施。
平成 2.11	東玉川全世帯に「世田谷全図」を配布。
4.4	東玉川町会が世田谷区のゴミ減量と資源再利用のための「ゴミ分別収集モデル事業町会」に指定される。
4.5	東玉川会館大広間の床張替工事を実施、7年7月には台所床及び玄関の改修、9年4月には大広間の床を一部補修。
4.11	東玉川町会の防災組織を編成替え。
4.11	区政60周年記念大会において東玉川町会が世田谷区から「団体功労賞」を受賞。
7.7	阪神大震災の被災者に義援金(20万円)を拠出。
8.9	消火作業に必要なD型消防ポンプを配備。
9.5	「東玉川福祉便り」第1号、第2号を発行、9年11月以降は奥沢地区の「民生・児童委員便り」に統合し、改めて第1号から第14号(13年12月)まで発刊。
9.7	「世田谷ロール」を東玉川会館で発売開始。
10.9	東玉川町会の申請に基づき、世田谷区から防火資機材の助成を受ける。以後、継続。
12.4	介護保険スタートにあわせ、東玉川地区会館に「ふれあいルーム」を開設。

年 月	(一 般 事 項)
平成 13. 4	東玉川神社の神主総代及び世話人と会合し、町会は神社維持費の集金や祭礼の奉納金集めを行わないことに合意する。
13. 6	オウム真理教の世田谷区転入に関する反対署名運動を展開。
13. 8	第 7 代会長に石井一正氏が就任。
14.10	東玉川町会と東玉川むつみ会の資源再利用活動の功績が認められ、区政 70 周年記念大会において世田谷区より「団体功労賞」を受賞。
15. 9	秋の交通安全運動の一環として、玉川警察署からの呼びかけにより環八での街頭千人配置運動に参加（参加者 19 名）、16 年 9 月にも参加（参加者 16 名）。
16. 1	奥沢中学校での「第 1 回高齢者パソコン教室」がスタート。第 3 回からは「奥沢交和会」も参加し、第 9 回（21 年 3 月終了）まで実施。
16. 7	世田谷区の奥沢出張所（現奥沢まちづくりセンター）管内で古布回収を開始、12 月にも実施。以後、毎年 7 月と 12 月に実施。
16. 8	東玉川町会が法人資格を取得するために東玉川町会規約を大幅に変更。
16.10	東玉川町会が地方自治法第 260 条による「地縁による団体」の法人資格を取得。
17. 7	東玉川パソコン交流会が世田谷区の「地域コミュニケーション活性化支援事業」に応募し、承認される。原則として週 1 回東玉川会館で活動を開始。
17.12	歳末警戒夜回りを開始、19 年からは東玉川・奥沢小学校に参加を求める。
19. 4	東玉川会館改築のための建築委員会を設立、また東玉川町会総会で東玉川町会会館改築案の承認を得る。
19. 8	平成 11 年度から整備に着手した東玉川地区会館の花壇が世田谷区主催の「せたがやガーデニングコンクール（街なみ部門）」で大賞を受賞。
20. 5	東玉川町会総会で東玉川町会会館の増改築及び予算を審議、承認される。
20. 8	「町会会館だより」第 1 号を発刊、以後、東玉川町会会館の落成式の模様や建設工事の決算報告を記載した第 9 号まで発刊。
20.10	東玉川町会会館増改築工事を天山工務店と契約し、着工。
20.12	東玉川町会会館が上棟、21 年 2 月に引渡し、21 年 3 月に落成式を挙行（総工費 約 2,200 万円、＜収入内訳 ①ご寄付、篤志家及び町会員等個人 約 850 万円、「東玉川むつみ会」 約 450 万円、②世田谷区の助成金 811 万円＞）。
21. 3	東玉川町会会館で第 1 回映写会（名称 東玉川名画座）を開催。以後、毎月実施。
21.10	リサイクル事業の啓発と「地縁による団体」である東玉川町会の財政健全化に資するため、資源回収事業を展開。
22. 5	第 8 代会長に後藤茂氏が就任。
22. 6	「東玉川の歴史を語りつぐ会」が発足、同会が展開する事業が世田谷区の推奨する「地域の絆再生支援事業」の一環として認可される（23 年度も同様に認可）。
23. 5	東日本大震災の被災者に義援金（50 万円）を拠出。
	(訴 訟 関 係)
平成 14.5	土地賃貸人から東玉川町会に対し、賃貸借契約を解除するとともに、東玉川会館を収去して土地を返却せよとの「建物収去土地明渡請求事件」が東京地方裁判所民事部に提訴される。

(訴 訟 関 係)	
平成 14.7	東玉川町会が東玉川会館と隣接する神社（東玉川会館の所有権と借地権を主張）を相手方とし、「建物所有権確認等請求事件」を東京地方裁判所民事部に提訴、前記事件と併合審理となる。
16. 6	東京地方裁判所で判決。土地賃貸人の請求が棄却されるとともに、東玉川会館の東玉川町会所有が確認され、東玉川会館の所有権等を主張した相手方に所有権移転登記命令がでる。原告等は東京高等裁判所に控訴。
17. 4	高等裁判所において控訴棄却。5月12日に判決確定。5月26日に東玉川会館の建物登記。
18. 7	土地賃貸人から東玉川町会に対し、「賃料増額請求事件」が東京地方裁判所民事部に提訴される。
19. 2	東玉川町会が土地賃貸人を相手方とし、「町会会館増改築認可申立書」を東京地方裁判所民事部に提出。
20. 2	「賃料増額請求事件」判決、平成15年7月以降の賃料増額分等を東玉川町会が支払うことで結着。
20. 3	「町会会館増改築認可申立事件」決定、町会会館の増改築が認可される。



## 7、東玉川むつみ会関係

「東玉川むつみ会」は平成23年7月に創立60周年を迎えた婦人会で、現在の会員数は150名。会員の交流と支え合い、親睦を活動目標とし、早くから子育て支援の必要性を訴え、昭和36年に開始した「赤ちゃん検診」は今年で50年間も継続している。また長年にわたり、新聞、アルミ缶、ビン等の回収とリサイクルの啓発に取り組み、東玉川が世田谷区から資源回収モデル地区に選定される所となったほか、その資源回収資金等を「東玉川町会会館」の建設資金に寄付している。さらに、昨年10月で19回目の開催となるバザーの収益金（約460万円）は9つの活動団体の支援や災害見舞金、小学校の周年行事等に役立てている。

年 月	東 玉 川 む つ み 会 関 係
昭和 26.7	婦人会としての「東玉川むつみ会」が発足。
29	子弟の栄養補給を図るため、10円牛乳の自主配達を実施。
36. 5	東玉川むつみ会と東玉川町会は、保健所に保健婦派遣を依頼し、「赤ちゃん検診」を東玉川会館で開始。
39	消費科学連合会が結成され、東玉川むつみ会もこれに参加。
46	消費科学連合会の活動の一環として、①牛乳のテトラパックのPRと②円高差益還元による輸入品の値下げを図るため、バター、グレープフルーツ等の即売会を実施。
56. 4	古紙、古布、ダンボール、アルミ缶等の収集・リサイクル活動を展開。
60. 4	「赤ちゃん検診」を「子育て広場」と改称。
平成 3	親睦旅行を実施、以後、毎年2~3回実施。16年以降には「むつみランチの会」を実施。
4	第1回親睦バザーを開催、23年10月には19回目のバザーを開催。
9. 6	東玉川むつみ会と東玉川町会が介護保険のスタート（12年4月）に先がけて「東玉川健康体操とうたの会」などの介護予防事業を開始。
13.11	東玉川むつみ会の長年に亘る福祉活動が認められ、第50回東京都社会福祉大会で感謝状を受領。
15. 1	平成14年度健康づくり都民会議で東玉川むつみ会が「健康づくり推進功労賞」を受賞。
20. 9	「東玉川町会会館」の建設にあたり、長年にわたる積立金等から約450万円を寄付。
20.10	「傘の布」から「マイバック」を作成、「レジ袋」を少なくする活動が認められ、世田谷区から「世田谷環境賞」を受賞。
23. 7	東玉川むつみ会の創立60周年行事を挙行。

赤ちゃん検診の様



バザー収益金を福祉団体へ寄贈



## 東玉川の歴史を語り合う会での発言等

昭和 17 年に東玉川に引っ越してきました。近くには池が沢山あって子供が小さいものでしたから池や「どぶ」に落ちないように気を付けておりました。雪ヶ谷に買い物に行く道には今は多くの家が立ち並んでいますが、当時は「原っぱ」でした。(谷 美津子氏)

昭和 6 年に東玉川に引っ越してきました。小学校は、最初は「八幡小学校」に通い、次に「奥沢小学校」ができてそこで卒業しました。女学校は桜町です。池上電鉄の新奥澤線に乗車したことがあります。お客さんは調布女学校の生徒ぐらいであり多くありませんでした。スピードも実にゆっくりしたものでした。なお、東玉川の歴史に直接かかわることではありませんが、昔、洗足池の遊園地に小さな動物園がありました。(星野 きん子氏)

小学校低学年の時、町会主催の相撲大会に参加したのを覚えています。トレーラーバスは乗った記憶はありませんが、見た事があります。環八工事の写真から、調布学園の前の通りが桜並木だったことを思い出しました。(宮川 順吉氏)

私は温室で薔薇を栽培していました。昭和初期の東玉川には、明治以前からの住民である地主さんのあたりに、屋敷森(一種の防風林)があったのを覚えています。(石飛 慶夫氏)

環八の田園調布・中原街道間(昭和 45 年完成)について、着工から完成式典までを記録した写真がありますのでご覧ください。また、戦時中の東玉川の空爆の標的は田園調布学園の近くにあった高射砲だったと記憶しています。(澤田 武彦氏)

私が生まれ育った家は茅葺き屋根で炭屋をしていましたが、道沿いには大きなドングリの木が 5・6 本あり、木登りの遊び場になっていました。夏休みには子供達が鈴なりになってドングリの木に登っていました。(野口 幸子氏)

東玉川町内の石碑等を調べましたが、その中には元禄時代から昭和初期までの「諏訪分」の戸数を記録したものもあるようです。また、「東玉川交番」が設置される前の昭和初期には町内に 2ヶ所ほど駐在所があったように思います。(大口 勇次郎氏)

このほか東玉川町会役員からは、昭和 30 年代の東玉川商店街の地図の紹介に加え、「町内婦人会の子育てに関する膨大な記録帳があります」、「東玉川小学校設立当初の校庭は大田区にある東京都の所有地でした」、「のみ川が氾濫した記憶があります」などの発言がありました。

なお、東玉川の歴史を語り合う会に出席した若手からは、「参加者の東玉川に対する“愛”を感じました」(森 学氏)とか、「古くからの住民の話を聞いたり、写真をみることで出来、東玉川への愛着が深まりました」(佐野 俊明氏)との声が聞かれました。

(付 表 等)

1、東玉川の世帯数、人口の推移

(単位 戸、人)

	世帯数	人口	男	女	1世帯当り人口
昭和 25年 1月	1, 773	7, 367	3, 640	3, 727	4. 16
30年 1月	1, 965	7, 919	3, 989	3, 930	4. 03
35年 1月	2, 314	8, 256	4, 190	4, 066	3. 57
40年 1月	2, 616	8, 105	4, 113	3, 992	3. 10
45年 1月	2, 992	8, 265	4, 081	4, 184	2. 76
50年 1月	3, 006	8, 234	4, 041	4, 193	2. 74
55年 1月	3, 248	8, 138	4, 014	4, 124	2. 51
60年 1月	3, 096	8, 210	4, 041	4, 169	2. 65
平成 2年 1月	3, 275	7, 940	3, 861	4, 079	2. 42
7年 1月	3, 352	7, 793	3, 687	4, 106	2. 32
12年 1月	3, 447	7, 675	3, 604	4, 071	2. 23
17年 1月	3, 578	7, 786	3, 667	4, 119	2. 18
22年 1月	3, 726	7, 840	3, 645	4, 195	2. 10
23年 12月	3, 738	7, 863	3, 663	4, 200	2. 10

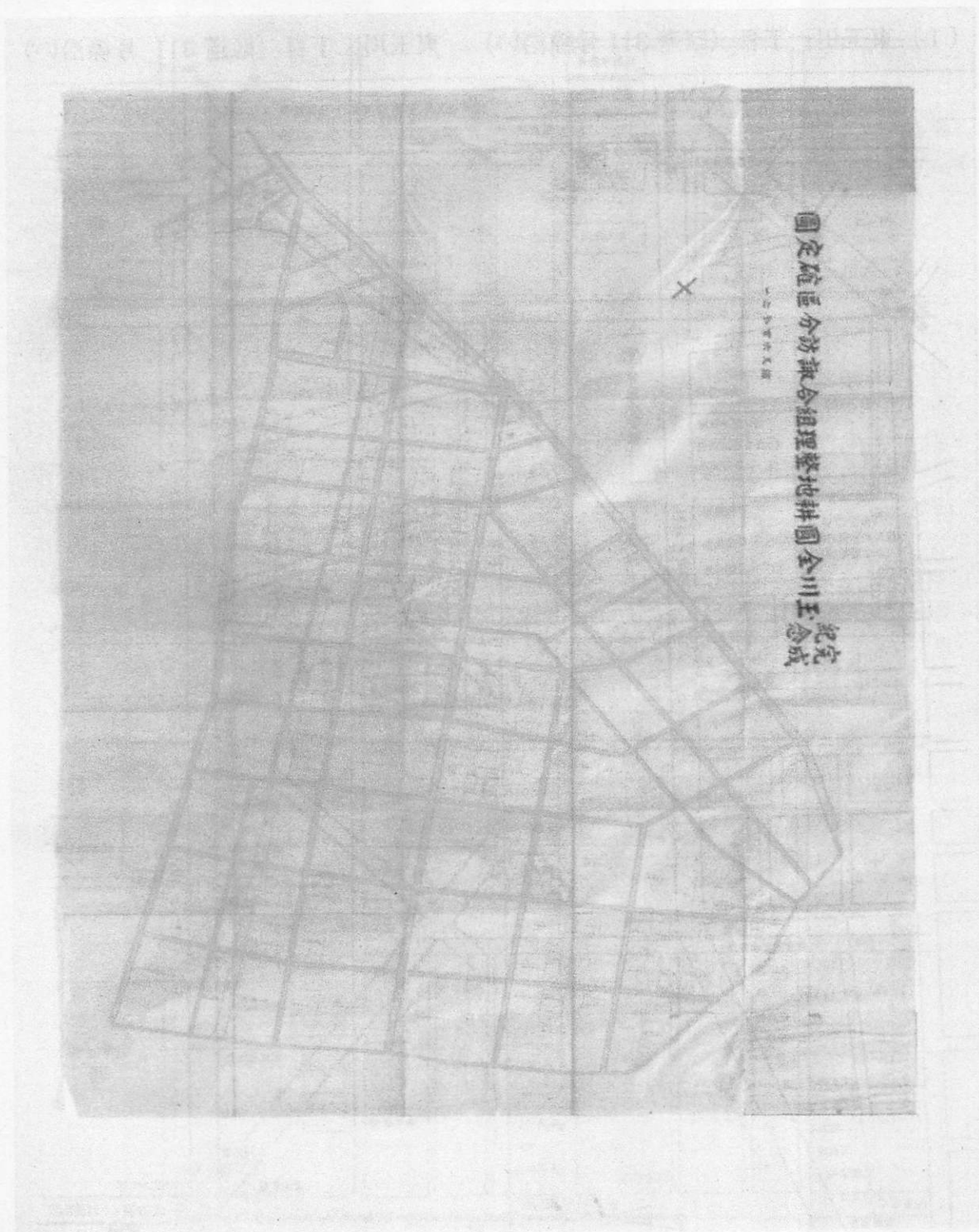
2、奥沢小学校、東玉川小学校の児童数の推移

(単位 人)

年	奥沢小学校	東玉川小学校	年	奥沢小学校	東玉川小学校
昭和 8	423	—	昭和 45	688	490
10	721	—	50	776	560
15	1, 287	—	55	707	723
19	252	—	60	579	530
20	1, 031	—	平成 2	465	347
25	1, 738	—	7	389	273
26	1, 415	394	12	333	242
30	1, 147	850	17	349	332
35	728	636	22	339	414
40	617	458	23	332	428



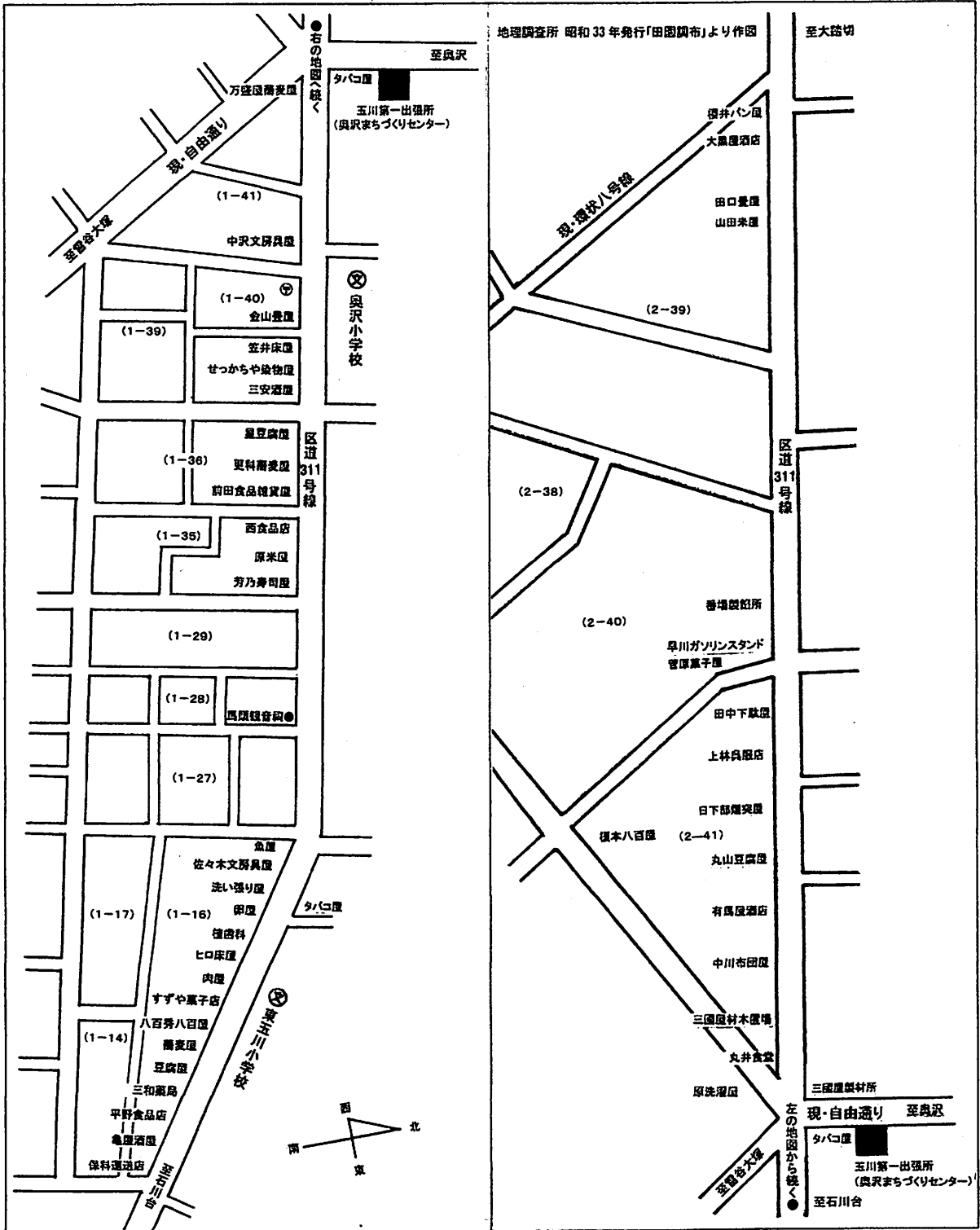
3、玉川全円耕地整理組合諏訪分工区竣工時(昭和6年)の地図(表紙地図と同方位)



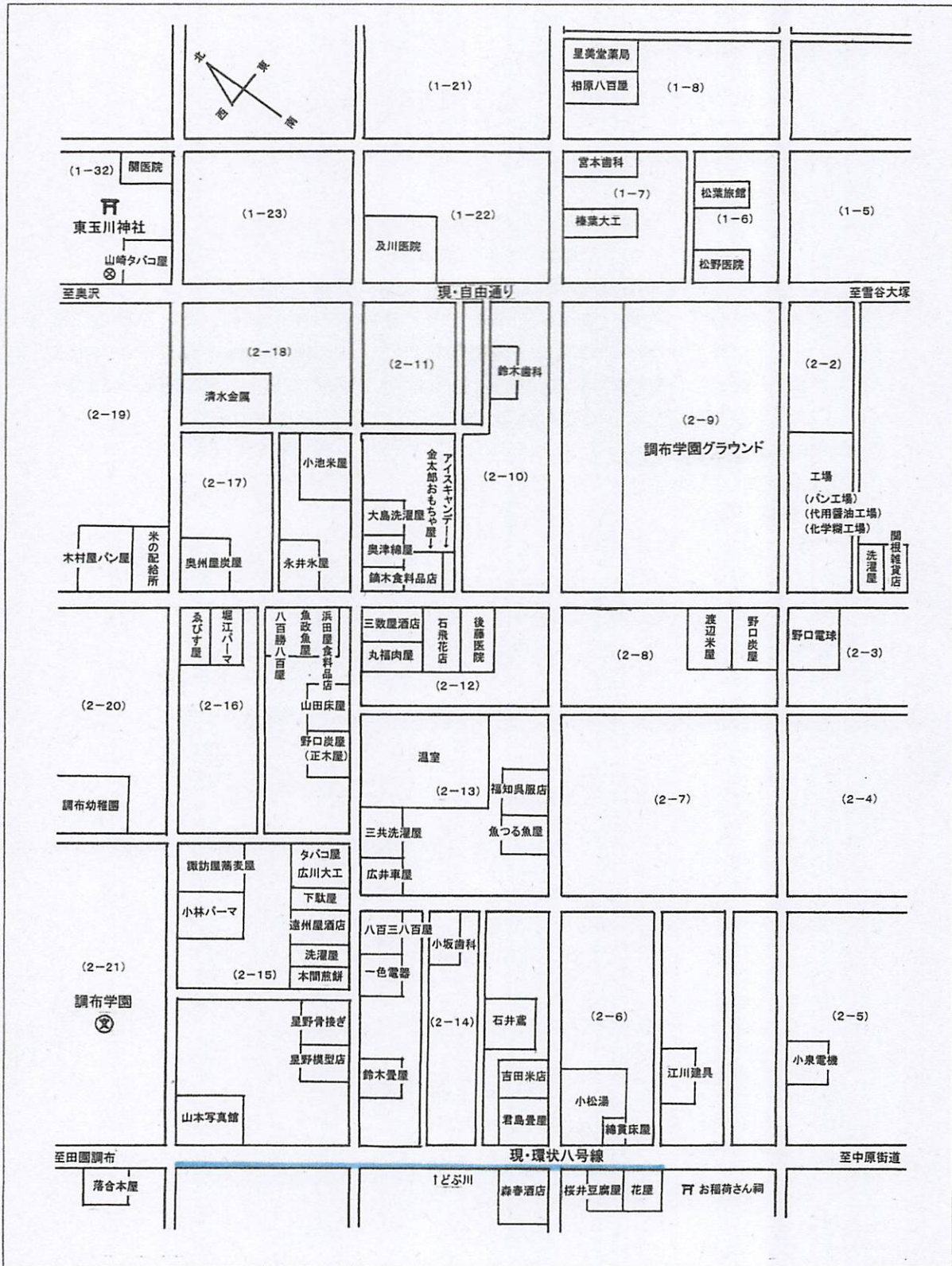
(注) 左端下(南)2番目と3番目の道路の間に幅広の道路のようなものが左端上(北)に伸びているが、これが池上電鉄の新奥澤線、左端から4番目の南北に伸びる道路が「自由通り」。

4、昭和30年前後の東玉川商店街

(1) 東玉川一丁目 (区道 311 号線沿い) 東玉川二丁目 (区道 311 号線沿い)



(2) 東玉川二丁目



## 編 集 後 記

東玉川の歴史を語りつぐ会  
代表幹事 奥山 龍一

「東玉川の歴史を語りつぐ会」では、平成 22 年 6 月に世田谷区が実施する「地域の絆再生支援事業」の一環としてその活動が認知され、東玉川の歴史に関する年表や年史の編纂に取り組むこととなりました。また、編集した年表等はあらゆる媒体を通じて住民に周知し、東玉川の歴史に関する認識を高めてもらうとともに、町内の長年にわたる福祉や資源再利用等に関する諸活動の重要性を理解していただき、これに積極的に協力するまち作りを目指してきました。

そのために、①回覧等により地域住民に写真等を含めた歴史情報の提供を呼びかけたほか、②歴史に関する住民参加のディスカッションの場であり、高齢者の存在感を一段と高めることとなった東玉川の歴史を語り合う会を 3 回ほど開催しました。この間、③様々なジャンルにわたる調査データを持ち寄っての幹事による定例打合わせ会(月 1 回)を実施し、歴史資料の収集と整備を図った結果、ここに年表形式の冊子を編集・発行することができました。

冊子の編集にあたっては、石井一正前町会長のご遺稿である「東玉川町会誌」に多くを依存しており、まずもって故人の執筆熱意に敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。また、東玉川町会役員を含め、東玉川の歴史を語り合う会に参加された方々等からは、「玉川全円耕地整理組合諏訪分工区」完成時の貴重な古地図や昭和 7 年当時の調布学園を中心とした航空写真など、各種歴史資料の提供をいただきました。さらに、参加者からは、例えば①「東玉川は等々力の地主本家の飛地であった」というような昭和以前の東玉川の成り立ちに係わる事柄や、②「昭和初めの東玉川と雪ヶ谷大塚の間は原っぱで、現在の田園調布学園のグラウンドがあるところなどに沼地が散在していた」、「昭和 30 年代の東玉川商店街はかなりの賑わいだった」といったような街並み風景に係わる事柄、③戦時中の防空壕の様子や焼夷弾被弾による火災と消火作業に関する戦争体験、等々、東玉川の歴史に関する生きた証言をいただいたことは冊子の編集に大いに役立ったところであります。ご協力いただいた皆様はこの紙面をお借りして改めて厚く御礼を申し上げます。

本年は、東玉川が昭和 7 年 10 月に東京市の市制拡大によりそれまでの「東京府荏原郡玉川村大字等々力字諏訪分」から「東京市世田谷区東玉川町」に改名されて 80 年になります。こうした節目の時に冊子を編集・発行できたことはこのうえない喜びであります。

東玉川の歴史	「東玉川の歴史を語りつぐ会」のメンバー
発行日：平成 24 年 3 月 25 日	会 長 後藤 茂
発行所：東玉川の歴史を語りつぐ会	代表幹事 奥山 龍一
編 集：東玉川の歴史を語りつぐ会	幹 事 野口 貞義 佐藤 昌義 安松 清
	青木 繁 清水 輝章
	清水 勝代 内田 博子 後藤 節子
<b>非売品</b>	